

仮設住宅って知ってますか？

仮設住宅は、概ね4畳半か6畳の2室に台所がある間取りで、平屋で現場事務所のようなプレハブが圧倒的です。仮設住宅に入居すると、自立したとみなされ、食料等の支援物資は提供されません。家賃は無償で、光熱費等を負担し、ここに災害義援金などから冷蔵庫やTVなどの家電が無償で提供されます。しかしながら、このような住環境に、家を失った人、家族を失った人、職を失った人、先の見通しがたたない中での避難生活に、心休めて日々を送れるでしょうか。東日本大震災ではおそらく1、2年あるいはもっと長期に渡るでしょう。

考えてみましょう！

あなたがこのプレハブの仮設住宅で1か月あまり暮らすことを想像してみましょう。

この震災による被災者は、生活の基盤そのものを失ってしまい、絶望感、閉塞感を持ち、すでに追い詰められ、精神面に深刻な影響が出始めていると言われます。

「家」って何でしょう。仮設住宅だって、この「家」と同じか近いものでなければ、被災を受けた人が生きて行くには辛い場所になってしまうと思えます。

仮設住宅を知ること、「家」を考える一要素のはずです。そして被災者に想いを馳せることにもなることでしょう。